

# 八木氏と別所氏

# 八木城跡



文化財ミニパンフ

国指定文化財 史跡八木城跡 平成9年3月6日指定  
県指定文化財 木造金剛力士立像 昭和58年3月4日指定

八木城は戦国時代の八木氏、豊臣時代の別所氏が利用した大規模な山城です。八木氏は但馬国守護大名山名氏に属して活躍し、四天王の1人に数えられました。織田信長に命令された羽柴秀吉・羽柴秀長による天正5年(1577)の第1次但馬攻め、天正8年(1580)の第2次但馬攻めによって、八木城主八木豊信は降伏します。その後天正13年(1585)、別所重棟が豊臣秀吉から八木城主に任命され、1万2千石(後に1万5千石)を与えられました。

八木城は、西から東へ伸びる細長い尾根上に築かれた山城で、東西340m、南北260mに及ぶ大きなものです。標高330mの最も高い位置に本丸を作り、そこから東方向に7段の曲輪(城郭を防御するために築いた平坦地)を造ります。さらに北方向に6段、琴弾峠をのぞむ南方向に9段の曲輪があります。放射状連郭式という大規模な縄張りです。但馬では天正3年頃から天正8年にかけて堀切や堅堀群を多用する山城が増えますが、八木城には本丸の後ろに堀切が1本あるだけで、堅堀群を造らないのが特徴です。

国指定文化財の八木城跡は、4か所の遺跡を統合したものです。第1は豊臣時代に築かれた高い石垣をもつ八木城跡、第2はその北西に位置して土塁で守る八木土城跡、第3は八木氏の室町時代の城主館である殿屋敷遺跡、第4は八木氏の氏神である赤淵神社に由来する赤淵遺跡です。室町時代から豊臣時代にわたる八木城主の八木氏と別所氏の足跡を刻んでいます。八木城は山陰道を押さえる、但馬の拠点城郭です。

戦国時代の八木氏は、山名四天王の1人に数えられました。関係する城郭は山名氏の本拠地である此隅山城(豊岡市出石町宮内)を筆頭として、太田垣氏の竹田城(朝来市和田山町)、田結庄氏の鶴城(豊岡市船町)、垣屋氏の築々前城(豊岡市日高町道場)・宵田城(豊岡市日高町宵田)・轟城(豊岡市竹野町轟)などです。



屏風のような八木城本丸石垣



八木城本丸隅櫓の石垣



八木城の復原想像図



八木の城下町



## 八木城の本丸

八木城の本丸は長軸47m、短軸23mのいびつな長方形をしています。本丸の最も奥まった位置にある2段の平坦地（Ⅰ・Ⅱ）が天守台の推定地です。本丸の南西側には高さ8.6m、長さ40mにわたって高い石垣を積みます。本丸の石垣には3点の特徴があります。第1は高い石垣が中央で「く」の字に折れている、第2は高い石垣の内側にそって幅3.3m～3.7mの石塁がある、第3は長さ14.9m、幅9.8mの規模を持つ算木積みさんぎつの櫓台石垣やぐらだいがあることです。石垣の折れ、石塁、櫓台石垣は江戸時代の城郭で発達しますが、その初期の源流になる施設が八木城に作られています。

本丸南西の谷が血ノ谷、南東の谷がフルヤケ谷（ふる矢が谷）という地名であり、八木城の合戦伝説を伝えています。本丸からは因幡国境にある氷ノ山をはじめ、琴弾峠、朝倉城が見えます。

## 二の丸

豊臣秀吉の時代から、本丸・天守、二の丸、三の丸という言葉が使われ始めます。八木城の二の丸は、本丸を囲む曲輪くるわで、八木城の縄張り図にあるA列2からB列3・B列4にかけての曲輪と考えられます。敵は本丸を目の前にしながら時計回りに迂回して進むことになります。八木城で最も大きな曲輪がA列4の曲輪です。長さ66m、最大幅17mあります。先端には「三つ顔さん」というお地蔵さんが祀られています。これを三の丸に相当する曲輪と推定しています。

## 矢穴をもつ石垣

八木城の石垣には石材を切り出す時に使った、石を割るための矢穴が残っています。八木城の石垣は竹田城と同じ技術で慶長3年前後に構築されたと推定しています。こうした石垣は、韓国に造られた倭城とも比較研究される大変貴重なものです。

また本丸の北東部は土造りのままで、石垣は全体の四分之三の範囲しか認められません。このため本丸は石の城と土の城の2面性があります。こうした方法は織田信長や豊臣秀吉の時代に作られた織豊系城郭に多い特徴です。別所重棟・別所吉治は八木城の本丸を石垣によって整備しました。石垣には破城説や未完成説などがあります。



八木城本丸の石塁



八木城本丸南西の石垣



八木城本丸北西の石垣



八木城本丸北側の石垣



八木城 縄張り図



**八木土城** 八木城から西側に200mほど登ると八木土城の西端があります。八木土城は標高407mの高い山の上に城を築き、細い尾根上に15の曲輪が連続しています。尾根の最高所に主郭をおき、全長は370mあります。主郭は小規模で16m×12mの楕円形をしています。

八木氏が城主となって完成した戦国時代の城郭は八木土城と八木城が一連となった城郭であり、後に八木城に石垣を築いて独立させたため、2城に分離したという説があります。とくに5・10・11の曲輪には高さ1.0m～1.5mの土塁が作られており、曲輪5には外柵形虎口があります。これは織豊系城郭にみられる築城技術の一つであり、別所重棟の改築という説があります。

八木城主八木豊信は、天正3年(1575)11月から天正7年7月にかけて毛利勢の吉川元春と連携しました。北近畿では、八木城主波多野秀治・黒井城主荻野直正・竹田城主太田垣輝延・八木城主八木豊信・轟城主垣屋豊統が毛利勢に味方し、明智光秀・羽柴秀吉に敵対する反織田勢力を形成しました。吉川元春は小早川隆景に対して、八木城と轟城が落ちれば、因幡はおろか出雲・伯耆も羽柴秀吉に攻め落とされる、八木城に毛利勢を派遣し警固したいと連絡しています。天正9年吉川元春の予言は的中し、鳥取城は落城し因幡・伯耆は羽柴秀吉が制圧しました。



八木土城 縄張り図

## 2人の八木城主

**八木豊信** 八木但馬守豊信は大永4年(1524)に生まれ、但馬国守護大名山名氏の四天王と言われた八木氏の第15代当主で八木城主。織田信長勢による山陰攻めでは毛利輝元の武将吉川元春と同盟し、但馬国における反織田勢力の中心人物として活躍するが、天正8年4月、羽柴秀吉・羽柴秀長の但馬攻めにより降伏。6月には羽柴秀吉に属して因幡国若桜鬼ヶ城を守備するが失脚。天正10年2月堺の商人津田宗久の茶席に出席し、その後は日向国佐土原城主島津家久に仕えて没す。

**別所吉治** 別所豊後守吉治は三木城主別所長治の従弟、天正19年別所重棟の死によって1万5千石の八木城主となる。文禄の役では晋州城攻防戦に参戦し、関ヶ原の合戦では丹後田辺城の戦いに参戦した。豊臣政権では小姓頭衆6人の1人、中瀬金山の代官を務める。父は別所重棟、母は清洲城主福島正則の姉。正室は三田城主山崎家盛の妹、正室の姉は熊本城主加藤清正の正室。慶長5年(1600)関ヶ原の合戦後、八木城から丹波国由良に2万石で移り、寛永5年(1628)改易となる。



八木豊信の像



外柵形虎口からみた八木土城の主郭



土塁で守る土城の曲輪



八木土城の外柵形虎口



## 伊能忠敬の測量日記

全国を測量して歩いた伊能忠敬<sup>いのうただたか</sup>は文化11年(1814)、70歳の時に但馬を測量しました。その正月十三日の測量日記には、「(生野代官)恩田御料、下八木村、右四町斗古城跡、字城山、永禄二年迄八木但馬守居城、其後天正八年迄別所豊後守居城の由、今滝川板橋五間、中八木村、右に浄土宗龍国寺、一向宗永昌寺、上八木村打止」と書いてあります。永禄二年は天正八年、天正八年は慶長五年の誤りですが城主名を記した貴重な資料です。

## 八木の城下町

天正13年(1585)、別所重棟は豊臣秀吉から八木城主に任命され、下八木の御里に城主館を置きました。別所氏が改修・整備したのが八木の城下町です。現在の上八木、中八木、下八木を含む東西800m、南北は最大300mの範囲です。北側に八木城を配置し、東側の今滝寺川、南側の八木川を城下町を守る外堀として利用した総構えという防御方法をとっています。八木の城下町は、豊臣秀吉から任命された大名が住む軍事都市であり、八木藩の経済の中心地でした。

細長い城下町の中央には、一本街路と呼ぶ大通り(山陰道)があります。道路には「折れ」と「クランク」を設け見通しを遮りました。そして山裾には西方寺・永照寺・柳谷寺・実行寺などの寺院が並んだ広い屋敷があります。別所吉治は、関ヶ原の合戦で石田三成に味方したため慶長6年(1601)に丹波国由良(兵庫県丹波市氷上町北由良)に移され、八木城と城下町は廃止となりました。

## 八木の地名

八木や周辺地域には城主にまつわる色々な伝説や関連地名があります。合戦の血が流れた血ノ谷、矢がふるように飛びかったフルヤケ谷、八木川にかかる剣大橋、弓矢の練習をしたという的場、家老の屋敷があったという家老屋敷、お姫様が琴を弾いたという琴弾峠、落城を悲観したお姫様が身を投げたという袖ヶ池などです。

## 今滝寺

今滝寺は八木城主八木氏の菩提寺です。当時は9院3坊が並ぶ大寺院でした。仁王門には鎌倉時代に製作された兵庫県指定文化財の金剛力士立像があります。今滝寺は、江戸時代には八木城主の子孫である旗本八木氏と親交をもち、毎年朝倉山椒を献上しました。文化10年(1813)に亡くなった八木補之(旗本7代目)の位牌を祀っています。補之は兵庫県加東市の穂積に陣屋を構えた4000石の旗本で、日光奉行を勤めました。



今滝寺の金剛力士立像



山裾にある実行寺



八木城交流館

## 登山道

登山道は3本ありますが、整備されているのは下八木ルートです。柳谷寺の東側の道を登っていく中八木ルート、永照寺の西側を登る上八木ルートは、一部登山道が不明瞭な場所がありますので下八木ルートを利用してください。八木城本丸まで約980m、徒歩で約40分ほどかかります。そしてさらに、八木城本丸から約400m尾根筋にそって約20分登ると土城の主郭に至ります。なお、下八木には八木城交流館があります。



八木城跡 登城ルート図